



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

## — あいなん音故地新 — 春が来た。

芽吹の季節がやってきた。新しい学年、新しいクラス、新しい学校、新しい部署。環境が変わる人も多いはず。ワクワクしますか？それとも不安ですか？私はどちらかというワクワクし、さらに気合十分で鼻息を荒げるタイプやった。それは今でも変わりません。笑

不安な気持ちを持って過ごすより、初めてのことを楽しんで過ごしたほうが、毎日は楽しく、人生は豊かになる。自分の考えは頭の中だけに留めず、とりあえずやってみて、経験して、会って、チャンスをつかんでほしい。自分がやりたい、と思ったことは他の誰に何を言われてもやり通して、あなたの人生をあなたの足で歩いてほしい。

中島みゆきも歌ったよね、『その船を漕いでゆけ/お前の手で漕いでゆけ/お前が泣いて喜ぶ者にお前のオールをまかせな』まさに、これ。人生は一分一秒の積み重ね。できるだけ下を向かず、前を向いて、顔を上げて、一日一日を過ごしてほしい。

さあ！春が来たよ。この時期を待ち望んだ草木みたいに、私たちも太陽めがけて伸びていこうやないの！ (テノヒラkiku)



御荘文化センター図書室より

## “4月の新着図書ピックアップ”の紹介

### 【絵本】

『アイヌのむかしばなし

ひまなこなべ』

どい かや(絵)

萱野 茂(文)

あすなる書房(発行)

クマが肉や毛皮をもたらしてくれるお礼に、アイヌは感謝の気持ちをこめて賑やかな宴を開きます。その宴で、クマの神は、踊りの上手な若者に会います。その踊りを見たいがゆえに、何度もアイヌに仕留められるクマの神。若者の正体は何でしょう。なぜ踊るようになったのでしょうか。愛らしい挿絵とともにどうぞ。



### 【小説】

『潮音〈第1巻〉』

宮本 輝(著)

文藝春秋(発行)

幕末の越中富山藩に生まれた川上弥一。十六歳で薬種問屋に奉公に入った弥一は、やがて薩摩藩担当の売薬行商人となる。薩摩藩の役人とも親しくなっていく中、弥一は薬売りと薩摩藩をつなぐ秘密に気づき始める。越中富山の売薬行商人の語りにより、幕末・維新、激動の時代を背景とした壮大な物語が始まる。



御荘文化センター図書室では、毎月「御荘文化センター図書室だより」を発行しています。図書室だよりを通じてピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町  
ホーム  
ページ